

イベント報告
2017.5.28 sun.



皐月の空にアンデスの調べ。「コンドルは飛んでいく」の気分になりました。

アンデス音楽はボリビア・ペルー・エクアドルなどアンデス諸国の先住民の音楽とスペイン系の音楽が融合して生まれたものです。グループ名の「カルマンタ」は、ケチュア語で「遠くから」の意味だそうです。カルマンタは四人編成。担当楽器はケーナ・サンポーニャ・ギター・チャランゴ・パーカッションという組み合わせ。メンバーのリーダー・ホセさんは、2003年に来日してからずっと浦安に住んでいらっしゃるので、日本語はペラペラ。ケーナとサンポーニャの名手。太い竹を乾燥させ油を塗って作るケーナは、指で押さえる穴が開いている楽器。細い竹をつなげて作るのがサンポーニャ。ホセさんは、これらの楽器をご自分で製作されるとか。カルマンタは、東京都のヘブナーティストに認定され、全国各地で演奏されています。今回の曲は全部で14曲。その中には、フォルクロー



レの代表曲「コンドルは飛んでいく」やランバダでおなじみの「泣きながら」がプログラムに入っていました。「みんなで歌いましょう！」のコーナーでは、「涙そうそう」を合唱。アンデス音楽に浸った一日でした。
(写真・文 広報ボランティア 松尾)



世界とつながるスポーツへ

アジアカップ 2017 TOKYO winner Singapore!

6月10日(土)・11日(日)、足立区生涯学習センター講堂ではおはじきサッカーアジアカップを開催。国別団体戦出場国は日本、シンガポール、オーストラリア、オープン個人戦には6カ国が参加した。クラブ団体戦も行い、連日熱い戦いが繰り広げられた。試合後は対戦相手と固い握手を交わし、戦いを見届けたレフェリーとも肩を組み合わせた。選手たちは勝ち負けだけではなく、得難いものをこの大会で経験したようだ。

国別団体戦とオープン個人戦を制したのはシンガポール。強豪国としての強さを見せつけ、今大会で3連覇となる。日本は3位と健闘した。来年の大会に向けて力強く前進してほしい!

また、同大会中ホワイエで来場者がおはじきサッカーを体験できるブースを設けた。来日した海外選手と来場者がプレイを楽しむ姿も見受けられた。連日観戦に来た親子は、手慣れた様子でおはじきサッカーを楽しむ様子が印象的だった。去年12月に横浜で開催された日本おはじきサッカー協会主催イベントへ参加。選手とも交流し、おはじきサッカーの面白さに驚かれたそう。このアジアカップも、同イベントで知ったようだ。自分も選手として戦ってみたいという男子。来日した海外の子どもたちとホワイエで対戦し、友人になったという。言葉は通じずとも互いの笑顔だけで十分。選手や来場者の国際交流の場となった。

今大会を皮切りに、足立区では今後もおはじきサッカーを中心に交流の場を広げていきたい。今後のイベントに乞うご期待!

足立区のどこでも、おはじきサッカーができるように――



共催：協力 新田地域学習センター 新田所長

「アジアカップ2日間を通じて感じたことは、海外勢がレベルの高さです。なぜ彼らが強いかというと、普段から公式戦の数をこなしているからです。準備がプレイヤーを育てます。そこまではクラブを覗かし、クラブ内やクラブ間で切磋琢磨することが大事だと感じました。

幸い足立区には14の生涯学習センターがあります。つまりクラブ普及のためのフォーマットをすでに持っているということです。これを何とか活かしたい! センター単位でクラブを作るもよし、あるいはセンターの垣根を飛び越えてクラブを立ち上げるもよし。センターに来て、おはじきを楽しみ、練習

する、プレイ人口が増えれば試合が出来る。また選手の経験やダービーで盛り上がりますね。▼秋以降には「オートム トーナメント 2017 (FISFP Satellite in Adachi)」を計画中。

足立区サッカー協会の声

足立区サッカー協会の声。この足立区で何年か、おはじきサッカーをプレイしている。目的は楽しむこと。そして、試合を通じて、仲間を増やしたい。そして、おはじきサッカーをプレイできるような環境を作りたいです!

